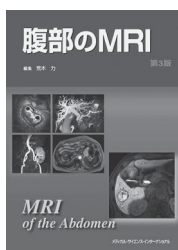


書評

[評者]
角谷眞澄
信州大学教授・画像医学



腹部のMRI 第3版

荒木 力 編集

●B5判 頁620 2014年
定価 13,000円＋税
[ISBN978-4-89592-769-7]MEDSi 刊

MRIの第一人者、荒木 力先生編集による「腹部のMRI(MRI of the Abdomen)」の初版がメディカル・サイエンス・インターナショナルから発刊されたのは、2000年4月である。腹部MRI診断に関する最新のtextbookの必要性に迫られ登場した本書は、編者の狙いどおり腹部MRIのstate-of-the-art(最先端をいく、最高水準の内容)として受け入れられ、「一般臨床に役立つ教科書」としての地位を瞬刻に築き上げた。目を見張るようなMRIの進歩に呼応し、2008年には改訂第2版が、そしてこのたび2014年4月には第3版が刊行の運びとなった。初版の448ページ、第2版の516ページをはるかに凌ぐ620ページからなる第3版では、各章のアップデートはもとより、肝細胞性造影剤とエラストグラフィの項が新たに加わり、3T装置の特徴についても詳細に解説されている。その結果は“Stay tuned!”(チャンネルはそのまま)なる編者の願いどおり、「紐解いた誰もが手放せなくなる一冊」に仕上がっている。

本書をさらに具体的に紹介しよう。中扉などにブルーを配した2色刷に変身し、目次を含め大変見やすくなっている。「MRIは略語の世界」で、同一の撮像法でも装置メーカーが異なると呼称が違ってくる。このことが初学者をMRIから遠ざける一因にもなっている。本書では、頻出する86の略語の正式英文と日本語訳が3ページにわたる一覧表として目次の次

に掲載されている。編者ならではの気配りが心憎い。

「Introduction 腹部MRI—その後の進歩」は編者自身の筆によるもので、3T装置の特徴、MRエラストグラフィと拡散MRI、肝細胞特異性造影剤に関する事項がコンパクトにまとめられた必読の章である。また、本書のコアをなす「肝・脾、胆・膵、消化管、腎・副腎・後腹膜、骨盤」の各章は、初版からの執筆者と新加入の執筆者による分担で、さらにグレードアップされている。本書のセールスポイントでもある「血管、DWIBS」の章も、実に読み応えがある。掲載されている画像は組織像を含めいずれも鮮明で、説明文もコンパクトにまとめられている。挿入されたシェーマも的確で、読者の理解を深めてくれる。そして、随所に配されたBOXも秀逸で、これを拾い読みするだけでもMRIへの学習意欲が高まること請け合いである。

本書は、画像診断に携わる放射線科医はもちろんのこと、腹部領域の診療と研究に関わる他科の臨床医にも必携の一冊である。また、短時間に腹部領域のMRI診断の実践的知識を習得したい診療放射線技師や臨床実習中の医学生にもお勧めである。立場が違えば利用法も異なるであろうが、本書は誰もが十分満足のいく内容であると確信する。カラフルにパワフルにバージョンアップされた改訂版で、魅力あふれる腹部MRI診断の世界にチャレンジしてみよう。